

2025年1月31日
セイコーエプソン株式会社

2024年度第3四半期決算説明会
主な質疑応答

●全社

Q: FY24のその他の営業費用には、人員削減などに係る費用はどの程度計上されているのか。
また、来期の規模感も教えてほしい。

A: Q1にはシンガポールの製造拠点再編に関する費用で約19億円、Q2は米国版社の組織再編に関する費用で約10億円を計上した。マニファクチャリングソリューションズ事業でもコスト削減を進めているが、他事業への人員の配置転換を中心に行っており、一過性の大きな費用は発生していない。
来期もFY24と同様に、全社で大きな費用が生じる施策は見込んでいない。

●プリンティングソリューションズ

Q: プリントヘッド外販ビジネスの売上収益は四半期ごとの変動が大きいですが、今後の見通しを教えてください。

A: FY24上期は、中国の商業・産業印刷機メーカーの新製品立ち上げが重なったことで売上収益が大幅に増加した。このように四半期ごとに売上収益の変動はあるものの、印刷のデジタル化により今後も伸長する分野であることに変わりはない。

Q: Fieryの業績は、通期業績予想のPLにどの程度織り込まれているのか。

A: 2024年12月2日の子会社化以降の約4カ月分をQ4の業績として、売上収益は約100億円、事業利益は約20~30億円を織り込んでいる。

●マニファクチャリング関連・ウェアラブル

Q: PC事業における会計処理見直しによる一過性の影響はどの程度あったのか。

A: 売上収益、事業利益ともに約20億円の影響があった。

以上